

令和6年度 学校経営の重点

経営の基本的事項

伊勢崎市立あずま南小学校

学校 教育 目標	<p>◎ 基本目標 生涯教育の基礎を培い、心身ともに健康で、豊かな感性と知性を持ち、自ら判断し実践する児童を育てる。</p> <p>◎ 具体目標</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">◇思いやりのある子</td> <td style="width: 50%;">◇よく考える子</td> </tr> <tr> <td>◇たくましい子</td> <td>◇ふるさとを愛する子</td> </tr> </table>	◇思いやりのある子	◇よく考える子	◇たくましい子	◇ふるさとを愛する子
◇思いやりのある子	◇よく考える子				
◇たくましい子	◇ふるさとを愛する子				
学校 経営 の 課題	<p>1 「生きる力」をはぐくむ指導の充実</p> <p>(1) 健康・安全維持と体力の向上</p> <p>(2) 学力の向上</p> <p>(3) 豊かな心の育成</p> <p>(4) 一人一人の障害や発達等に配慮した特別支援教育</p> <p>2 信頼される学校づくりの推進</p> <p>(1) 学校運営の充実</p> <p>(2) 教員等の資質能力の向上</p> <p>(3) 異校種間や家庭・地域との連携</p>				
学校 経営 の 方針	<p>「組織を生かした学校経営」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童及び教職員一人一人がかげがえのない存在であるとの認識に立ち、児童・教職員の心身の健康と安全管理及び服務規律の確保に努める。 ○児童と向き合う時間の確保を重点に、運営委員会や研修推進委員会で方向性を確認共有し、学年会を核に共通の取り組みを実行し、PDCAに基づく学力保証を推進する。 ○教育課程を踏まえ、義務教育9年間を見据えた創意ある教育課程を編成・実施・評価し、さらに教職員一人一人の指導力の向上をもとに柔軟かつ大胆な学習内容の選択と焦点化を実施し、取りこぼしを防ぐ。 ○積極的な生徒指導を全職員で取り組み、児童理解と迅速で適切な対応に心がけ、情報を共有し共通理解することで、不登校、いじめ、事故、非行の低減を目指す。 ○コミュニティ・スクール推進校として、学校運営協議会を中核に、児童のよりよい成長を願い、家庭や地域社会、関係機関との連携を密にし、協働体制で教育の充実に努める。 ○地域人材を活用し、地域と連携した伝統文化の体験、伝承活動を設定することで、地域行事への積極的な参加を促し地域の子育て基盤作りに努める（感染症予防を配慮して実施）。 				
本 年 度 の 努 力 点	<p>1 「生きる力」をはぐくむ指導の充実</p> <p>(1) 健康・安全維持と体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさやできる喜びの味わえる体育の授業や運動タイムを実施し、健康でたくましい児童の育成に努める。 ・「あずま南小学校の約束」や「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭での望ましい生活習慣の育成に努める。 ・災害を想定して、保護者への引き渡し訓練、避難訓練(火災・地震・不審者)、交通安全教室、防犯教室を実施し、災害・交通・防犯に対する安全教育を推進し、事故ゼロを目指す。 <p>(2) 学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～6学年で教科担当制を推進し、教師の専門性を生かして「主体的・対話的で深い学び」の実現となる授業を展開し、教科の楽しさを実感できる学習指導を目指す。 ・5、6学年の理科を教務主任が担当とし、教科担当制を促進し、指導者による変動を押さえ学年全体の学力向上につなげ、さらに教材研究等での業務軽減を図る。 ・3、4学年に理科専科を配置し、中学年の指導体制を補強し、3～6年までの系統的な理科指導の充実と全職員の授業時数の軽減を図る。 ・学力差が生じやすい3学年の算数を、担任とマイタウンティーチャーによるきめ細かな少人数指導を展開し、上位層の一層の学力向上と下位層の基礎基本の定着を図る。 ・英語学習は、ALT・ESの役割を明確にし、全学級で学級担任が授業を主導し、効果的な英語指導を推進する。 <p>(1～4年：週3回のモジュール授業は担任のみ。もう1コマの授業はESとTT。 5～6年：2コマ授業は、ALTとのTT。)</p>				

- ・日常的にICT機器を用いた授業に取り組めるように環境整備を一層強化し、個別最適な学習と協働的な学習を促進していく。
- ・「家庭学習のすすめ」、「あずま南っ子(NRT/CRT/体カシート記録ファイル)」を活用し、家庭と連携し自主的な家庭学習の推進に努める。
- ・年度当初のNRT検査で学級の学力分布や推移分析、抽出児童等を把握して、個々の教師が設定した目標と具体的プランを実行する。CRT検査で成果を検証し、年度末までに補充学習で完全習得を目指し、PDCAサイクルによる学力向上対策を推進する。
- ・「めあて」と「まとめ」の設定や学習への見通しの持たせ方を工夫した授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。

(3) 豊かな心の育成

- ・児童主体の活動(縦割り活動、あいさつ運動、学校保健委員会、いじめ防止をテーマにした学級活動や児童会活動等)や児童の「いいところみつけ」を積極的に実施・共有し、いじめの低減を目指す。
- ・生徒指導記録ファイルを活用し、日々の生徒指導事案を積み上げ、全職員で情報を共有し、「だれでも・いつでも・迅速に」共通な生徒指導で非行ゼロを目指す。
- ・教育相談コーディネーターを中心に担任、養護教諭、SCや生活相談員がそれぞれに、共感的・受容的な児童理解をもとに児童の小さな変化にも敏感に気づき、迅速な対応を心がけ、家庭と連携して不登校の低減を目指す。
- ・豊かな心をはぐくむ読書活動の推進を図り、図書室からの貸出冊数を全校児童一人平均90冊以上を目指す。
- ・ふるさと学習では、学習のねらいや道徳との関連、系統性を明らかにして、ボランティアを活用しながら様々な体験活動を実施し、周囲への感謝の気持ちや自己有用感、社会性を高め、ふるさとを愛する子を育てる。

(4) 一人一人の特性や発達に配慮した特別支援教育

- ・特別支援教育コーディネーターを中核に、知的教室担任、情緒教室担任、教育支援員、教育相談員、スクールカウンセラー、養護教諭がチームとなり、協力学級担任と連携して特別支援教育を推進する。
- ・特別支援学級担任を中心に、個々の特性や発達の理解及び指導の充実に努め、特性や不登校等の問題を抱えた児童が、存在感と安心感をもって活動できる学校づくりを推進する。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、通常学級に在籍する個別な配慮が必要な児童に対する適切な対応を心がける。

2 信頼される学校づくりの推進

(1) 学校運営の充実

- ・学校が進む方向性を明確にし、目標を共有する。
- ・教育課程の編成・実施・評価の適正化を図るため、組織的・計画的な運営に努める。
- ・人事評価制度を活用し、教職員の経営参画体制の確立に努める。
- ・学校評価の機能を生かし、保護者や地域の理解・協力が得られるよう努める。

(2) 教職員の資質の向上

- ・人事評価制度に基づく面談の中で、一人一人の目標を管理職と共有し、中間面談や授業参観後の指導助言を通じて、目標達成へのマネジメントを意識できるようにする。
- ・管理職等による授業参観や一人一授業、各ブロックごとの提案授業や代表授業を行い、研修の推進を図る。
- ・教員相互の授業参観を日常的に推進し、授業改善を目指す。

(3) 家庭・地域との連携

- ・学校運営協議会の意見を可能な限り教育活動の反映に努め、コミュニティースクールの機能を活用し、本校の特色である家庭地域と連携した体験活動の推進を図る。
- ・米づくり、野菜づくり、餅つき、感謝の集い、スポーツ教室などの地域の教育力を活用した体験学習を通して、ふるさとを愛する心を育てる。
- ・課題解決力やグローバルな見方・考え方を育てる視点を重視し、チャレンジスクールや農業体験等を実施する。
- ・5種類のスマイルサポーターの支援を受け、教育活動の充実に努める。
- ・地域の行事の火を絶やさないように連携し、引き継いでいく。
- ・通学路点検や資源回収など家庭・地域と連携した安全管理に努める。
- ・学校通信や学年通信、Webページ等の活用により、家庭・地域の学校理解に努める。

